

グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年2月9日～2015年2月15日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年2月18日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア「議会」が南米諸国に国家承認を求める決議を採択(13日)

・アブハジア「議会」は、ボリビア、キューバ、エクアドル、アンチグア・バーブーダ、セントルシア、ドミニカの各国の国会に対し、国家としての承認を求める決議を採択。

【南オセチア】

▼サナコエフ「外相」の発言(15日)

・南オセチアのメディアによれば、サナコエフ「外相」は来週にモスクワを訪れ、ラヴロフ露外相と「条約」への署名について協議し、「国境協定」に署名すると発表。また、グルジアに対する NATO の関心、グルジアでの NATO 訓練センターの設置がいかに関与の安定を損なうかについて議論すると述べた。

2. 外 政

▼電子式査証e-Visaの運用開始(10日)

・外務省が電子式査証 e-Visa のポータルサイト www.evisa.gov.ge の運用を開始。グルジアを訪問する外国人はグルジアの領事館に申請することなく電子式の査証を取得できるようになった。申請が受理され、50米ドル（と手数料）のオンラインでの支払いが完了すると、10日以内に申請者のメールアドレスに e-Visa が送られる。旅行者は入国の際に印刷された e-Visa を提示しなければならない。

▼ガリバシヴィリ首相がハンガリーを訪問(10日)

・ハンガリーのオルバーン首相、キョヴェル国会議長らと会談。「オ」ハンガリー首相はリガでの東方パートナーシップ首脳会議でのグルジアに対する査証自由化に対する支持を表明。特にウクライナ危機を経て、欧州にとってグルジアはエネルギー資源のルートとして著しく重要になったと述べた。

・ベルチャシヴィリ外相、カラゼ・エネルギー相、ダネリア農業相らが同行。「ベ」外相はシーヤールト・ハンガリー外務貿易相と両国外務省間の協力に関する議定書およびグルジア文化・遺跡保護省とハンガリー人的資源省間の「文化の分野における協力に関する覚書」に署名した。

▼ルーマニア外相がグルジアを訪問(12日-13日)

・アウレスク・ルーマニア外相がグルジアを訪問し、マ

ルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相らと会談。「ベ」外相との会談では二国間関係や経済、エネルギー、輸送分野のプロジェクトについて議論された。特にバトゥミ・コンスタンツァ間のフェリーの再開の重要性が強調された。「ア」ルーマニア外相は、ルーマニアはグルジアの EU・NATO 加盟を支持しているとして、リガでの首脳会議までに全ての加盟国が連合協定の批准を済ませるよう働きかけていると述べた。

▼ミンスク合意に関する外務省声明(13日)

・ウクライナ、露、独、仏がミンスクで停戦合意を結んだことについて、グルジア外務省は合意を歓迎する声明を発表。声明は、「合意が定める全ての義務を履行することが必要である。ロシアは国際法の基本的な規範と原則を尊重せねばならない」として、2008年8月12日の停戦合意が履行されていないことに言及。

・同日、「ベ」外相は、合意を歓迎しつつ、ロシアが合意を完全に履行することが重要であるが、これに関してグルジアには「非常に否定的な経験がある」と発言。また、ウクライナでの個別的な事態ではなく、地域におけるロシアの侵略的な政策という大きな文脈を考慮するよう欧州諸国に呼びかけた。

▼サーカシヴィリ前大統領がウクライナの改革に関する国際諮問委員会委員長に任命される(13日)

・ポロシェンコ・ウクライナ大統領は、改革に関する国際諮問委員会を設置し、サーカシヴィリ前大統領を委員長に任命。ウクライナ大統領府によれば、諮問委員会は国際的な優れた経験に基づき、ウクライナでの改革の実施に関する提案・助言をまとめる諮問機関。また、「サ」前大統領は大統領顧問にも任命された。

・15日、グルジア外務省は、説明を求めるため駐グルジア・ウクライナ大使を召致。

・同15日、イヴァニシヴィリ首相は、インタビューで「サ」前大統領がウクライナ大統領顧問に任命されたことはウクライナにとって危険であり、遺憾としつつ、グルジアはそれに理解をもって対応し、ウクライナが我々の友好国であることを忘れてはならないと述べた。

▼独連邦議会議長がグルジアを訪問(12日-15日)

・ランメルト独連邦議会議長がグルジアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相、市民グループ代表者、EUMM 団長らと会談。

・「ラ」独連邦議会議長は、独連邦議会は EU・グルジア連合協定の批准の手続きを既に開始したとして、5月のリ

ガでの東方パートナーシップ首脳会議までには手続きを完了できるだろうと述べた。

▼ベルチャシヴィリ外相がクロアチアを訪問(15日)

・グラバル=キタロヴィッチ・クロアチア新大統領の就任式に出席。プシッチ・クロアチア外相と二国間協力、通商・経済関係の振興などについて会談。

3. 内 政

▼最高裁判所長官の候補者が出そろう(10日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は1月より最高裁長官の候補者の推薦を募っていた。期限の2月9日までに、アフレディアニ・トビリシ市裁長官、ブルドゥリ・トビリシ国立大学法学部長、ドリゼ「グルジア青年法律家協会」元代表ら計28名の候補の推薦が提出された。「マ」大統領はこの中から候補者1名を国会に提出する。

・14日、マルグヴェラシヴィリ大統領は、最高裁長官の候補者として推薦された28名全員と面会。

・クブラシヴィリ最高裁長官は2月末に10年間の任期を終える。

▼アラサニア自由民主主義者党党首の発言(10日)

・TVのインタビューで、「ア」党首は、「次の議会選挙で自由民主主義者党が『事実上の首相』であるイヴァニシヴィリ前首相の与党連合を倒すと確信している」と発言。「ア」党首が国防相を辞任するきっかけとなった国防省・軍関係者の逮捕について、「イ」前首相が仕組んだものであると主張。また、「イ」前首相が政府の意思決定を

左右していることが政府の効率性を損なっているとして、「イ」前首相に政府に戻るか、あるいは、政府と完全に距離を置くよう呼びかけた。

▼トビリシ市役所職員の逮捕(12日)

・トビリシ市役所職員が、ホテルの建設許可と引き換えに180,000ドルの賄賂を要求したとして逮捕された。ナルマニア市長は、逮捕された職員が「ナ」市長と親しい人物であるとの一部のメディアの報道を否定。

4. 経 済

▼中国からの鉄道貨物輸送(10日)

・グルジア鉄道によれば、中国からグルジアへの初めての鉄道貨物輸送が完了した。中国、カザフスタン、アゼルバイジャン、グルジアの鉄道当局が協力し、1月29日に中国を出発、2月6日にグルジアで積み下ろしが行なわれた。

▼政策金利の引き上げ(11日)

・グルジア国立銀行は政策金利の4.0%から4.5%への引き上げを決定。通貨政策委員会は、「グルジアにおけるドル経済の高い割合を考慮すると、米ドルに対するラリの減価はインフレの危険性をもたらしている」「経済に大きな影響を与える事態が起こらない限り、2015年末まで政策金利は5%以下を維持する」とのコメントを発表。